

【01 接吻亭へようこそ ～お迎えで骨抜きキス～】

(※2人ともマイク正面)

真由莉「いらっしゃいませ、お客様。

本日は接吻亭へようこそ…。

ご指名頂きました、真由莉でございます…

って、あら？

ふふ、今日は随分と可愛いお客様ね…♪」

花蓮「いらっしゃ～い。同じく指名をもらった、花蓮よ♪

ごめんね～

一応決まりだから聞くんだけど、このお店、

18未満の子は入れないんだ。

キミ、18歳以上で合ってる…よね？」

真由莉「まあ…昨日18歳になったばかりなの…？

良かった…安心したわ…♪

これからお姉さんたち、

てっきり悪い事しちゃうのかと思ったわあ…♪」

花蓮「え？ よく中学生くらいに間違われるんだ？

あはは、ごめんね～？

キミ、すごく可愛かったから、どうしてもね♪

で•もお…

(■※マイクの左耳・ゼロ距離)

(■※ささやく感じで)

お姉さんたち…キミみたいな可愛い子…

嫌いじゃないわよ…♪

むしろ好み… みたいな？」

真由莉 (■※マイクの右耳・ゼロ距離)
(囁く感じで)

「キミも、まんざらじゃ無さそうね・・・♪
(■※耳に息)

ふーーーーーっ・・・
え？ むしろ好き？

ふうん・・・♪
ひょっとして、こういうのに、憧れてたんだ・・・？
色気ムンムンのお姉さんから、
子供扱いされるみたいに、攻められたい・・・みたいな。

じゃあ今日はこのまま・・・お客様の事を
キミ・・・とか、ボクくん・・・で、呼ばせてもらわね♪

花蓮 「でもお・・・ 18歳になった途端に
こんなお店に来て、しかも最初から3Pだなんて・・・♪
ふふ、相当エッチな子ね・・・♪

え？ ずっとこのお店に来たかったの・・・？
ずっとずっと気になってて、
いつもおちんちん、ムラムラ～って♪ させてたの・・・？
ふふ・・・いけない子なんだ・・・♪

真由莉 (■マイク正面に回って、優しいキス)

じゃあ今日は思いっきり、楽しんでいってね・・・♪
ん・・・ ちゅ・・・ ちゅっ・・・♪

ん、ふふ・・・
何驚いてるの・・・？
ここがどういうお店か、知ってるのよね・・・？

ん、ちゅ・・・ちゅ・・・
ここは「接吻亭」だから・・・。
挨拶もキスで、なのよ・・・？

(■優しいキス音・10秒ほど)

花蓮 (■※マイク左側)
(■※距離は少し耳から離れて)

「ふふ、キミ、これがファーストキス・・・でしょ♪

わかるよ～。
産まれたての小鹿みたいに
ぷるぷる緊張してて・・・♪ ふふ、可愛い♪」

真由莉「あら？ 良かったの・・・？
お姉さんがファーストキスの相手で・・・」

花蓮 (※左耳 ゼロ距離)

「勿論、わざわざこのお店・・・
接吻亭に来てるくらいだもんね・・・♪
むしろ期待してたんだよね？
いっぱいいっぱい・・・キスしたかったんだよね？

真由莉「ふふ、それもそうね・・・♪
じゃあ、お姉さんといっぱいキス、しましょう？
ん、ちゅっ・・・ ちゅ・・・ちゅ・・・♪

(※優しいキス 10秒)

花蓮「ふふ、真っ赤になっちゃって・・・
凶星ね♪ 可愛い・・・♪

じゃあ、そろそろ次は私とキス、しょっか♪
真由莉さん、代わって貰える？

(■※マイク正面へ)

言っておくけどお♪
私は真由莉さんみたいに優しくないわよお・・・？

んんっ！

んちゅれろぶちゅっちゅばっ！
れろちゅばちゅばれろちゅばっ！

(■※激しいディープキス音 40秒ほど)

真由莉(※マイク右耳側)

「まあ♪ すっごい…♪
花蓮さんったら、最初っから容赦なく、そんなに
激しいキスして…♪

(■※マイクに寄って、ゼロ距離)

(■※囁く感じで)

「今ファーストキスをしたばかりなのに、
もう大人のキス…されちゃったね♪

大人のキスどころか、
いきなり舌を深〜く突っ込まれて…。
お口の中を舌でグチャグチャにかき回されて…♪
口内を隅々まで犯されるみたいなエグいディープキス…

脳みそまでぐちゃぐちゃにかき混ぜられるみたいな
エロ〜いキス…♪
されちゃったね…♪」

花蓮「つぶあ…♪ ふふ、可愛い…♪
もう完っ全に目がとろ〜んって、蕩けちゃってえ♪
もう上の空になっちゃってるの…？」

でももっと、しちゃうよ？
恋人でもないような…
ただただ相手を貪りつくすみたいな、
ケダモノみたいなキス…♪
いっぱい、しちゃうよ…？

んんっ！ ちゅばれろちゅばれろちゅばっ！

(■※Dキス音・30秒ほど)

真由莉「ふふ、もう、花蓮さん、

流石にこのお客さんは刺激が強すぎですよ…？

もう身体がぶるぶる震えちゃってるじゃないですか…♪

ここはまだ廊下ですから…♪

このままだとお客様、

足腰立たなくなっしまいますから…♪

そろそろ続きはお部屋で、ね？

花蓮「ちゅぽんっ！

っふあ…♪

ふふ、それもそうね…♪

じゃあお部屋、いこっか♪

って、キミ、大丈夫…？

足、ガクガクしてるけど、ひとりで歩ける…？

真由莉「今からそんなだと、身体が持たないわよ…？

接吻亭のサービスはまだまだ

こんなものじゃないんだから…♪

覚悟、しておいてね…♪

【■※～終～】